



H29年産で50年連続で生産量日本一に 栃木県のいちご試食宣伝会が開催！

栃木県産いちごのトップセールス

- 期日：1月15日(月)
- 場所：大田市場 東京青果(株)
- 主催：JA全農とちぎ、JAはが野
- 内容：栃木県産いちごのPRや試食宣伝等

■栃木県で「いちご王国・栃木の日」を宣言！

これから栃木県産いちごが本格出荷を迎えることから、JA全農とちぎとJAはが野いちご部会員の関係者が多数来場してトップセールスが開催されました。

栃木県では、H29年産(H28年9月～H29年8月)のいちご生産量が50年連続日本一となることがほぼ確実となったことから、1月15日の「いちごの日」に合わせて、「いちご王国・栃木の日」の宣言が行われ、栃木県内で様々な「いちご王国プロモーション」*が始まります。

都中央でも、H29年いちご類入荷量は第1位、占有率は45%(群馬県は11位、同1%)で、2位の福岡県(占有率16%)を大きく引き離しています。また、栃木県の入荷量伸長率(H29/H25)は119%と、静岡県(同109%)以外の他県が減少する中で、大幅に増加傾向を示しています(群馬県は70%と減少傾向)。

■栃木県産いちごは出荷ピークに向けて増加傾向！

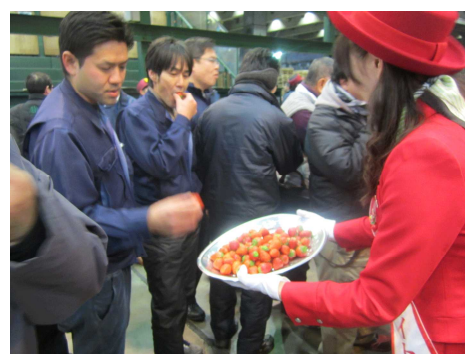
当日は、栃木県産の「とちおとめ」と「スカイベリー」が試食提供され、市場関係者に食味の良さをPRしました。

今年の栃木県産いちごは、花芽分化は平年並～やや早く推移しましたが、定植後の曇天続きで根張りがやや弱く、生育は遅れ気味とのことです。出荷始めはほぼ平年並でしたが、冷え込みから昨年より1割程度少ない出荷となっています。えき花房はややバラツキが見られますが概ね良好で、全体的には端境がなく連続収穫が見込まれるとのことです。現状、冷え込みで着色が遅れていますが着果は良好とのことで、天候回復から出荷量が増えてくるものと思われれます。

JAはが野の白滝いちご部会長から「平成30年は栃木県をいちごの年として積極的にPRしていきたいと思います。今年は冷え込みからやや少ない出荷量となっていますが、これからピークを迎えて出荷量が増えてきます。今年も栃木県のいちごの取扱いをよろしく願います。」とPRしていました。



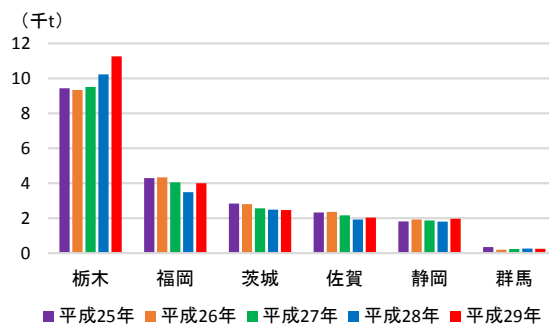
栃木県産いちごをPR



試食宣伝の様子



試食品(奥がスカイベリー、手前がとちおとめ)



いちご類の都中央入荷量上位5産地(+群馬県)の年別推移(H25～H29)

*いちご王国プロモーション：栃木県庁での記念セレモニーやいちごフォトスペースの設置、栃木県内3カ所で太陽のスマイルマルシェ等を開催